

パドヴァ大学の歴史

パドヴァ大学はイタリアでとても古く有名な大学です。1222年に正式創立したパドヴァ大学はイタリアでボローニャ大学に次ぐ第二番目の大学です。1222年前、パドヴァ大学の前身は有名なロー・スクールでした。その時のボローニャ大学で若い教授たちと学生たちは教会の支配下の学校がだんだん保守的になっていることに不満が増えた、学者は彼らが値する学問の自由を取得しないで、教授や学生ら有志者たちは縛られた自由がない、学問や、思想や、文化交流の場を求めています。このパドヴァに辿りついた後、大学の歴史がここで始めしました。

1222年以来、パドヴァ大学が学術自由の目指しは完全に守れています。13世紀で自由政体があるも、14世紀でパドヴァの治者――ダ・カララ家族も、1405年から18世紀末までのヴェネツィア共和国を支えました。今までも、パドヴァ大学の教師も学生も大学の校訓「**Universa Universis Patabina Libertas**」「**パドヴァもすべて人間のために自由を追う**」という理想を続けて追いかけてします。

パドヴァ大学は法律を研究するために成立した。「大学」として体系化されたのは1399年です。1399年、大学は**技芸部**と**法学部**で2学部を構成しました。法学部は「民法」と「教会法」を研究します。**技芸部**は「医学」、「哲学」、「神学」、「語学」、「弁証法学」、「レトリック学」、「天文学」を含まれていました。

同大学の特徴の一つとしては、宗教や民族の壁を持たなかったことでした。パドヴァ大学がヨーロッパでは初めてユダヤ人を受け入れた大学であり、戒律の厳しいカトリックの国では稀な存在でもありました。最初のパドヴァ大学は学生たちが団体を作ったものでした。団体が学生たちの出身地の別で個体群は二つがありました。「**山内民族**」と言うのはイタリアの学生でした。「**山外民族**」と言うのはイタリア人以外の外国学生でした。実は初めの時、学生たちは学則を一緒に書きました、学長や教授も自身団体に選んだ、学生団体は資金をかき集めて、教授たちの給料を払いました。後の数世紀で、学長を選ぶことと教授たちの給与制度は公権力組織が移行しました。

1405年ヴェネト地区はヴェネツィア共和国を統治されました。15世紀より、2-3世紀に渡る間は、この地がヴェネツィア共和国下であったという背景（カトリック教会からの圧力からの保護があったことなど）から、大学の個性化及び進化するとして著しい時代だったと知らされています。特に医学、解剖学の分野における進歩は目覚ましました。その中でも大学において偉業を残した人物はガリレオ・ガリレイです。1592-1610年に同じ大学にて教壇に立ちながら自身の研究を続け、後世に残る偉業もパドヴァにて生まれています。彼自身も生涯のなかで最も充実した人生をパドヴァで送った、と綴っています。

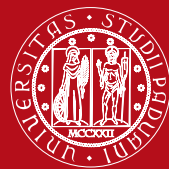
現代医学に偉業を成し遂げたとされ、1545年に開園した大学付属の**植物園**「オルト・ボタニコ」が薬草研究のために発足した、というのと同步しています。

また、1595年に完成した世界初の**人体解剖室**を持ったことも大変有名です。医学の分野としてはもちろん、広範に学問の現代的な発展においても影響のある大学のひとつとして、同学独自の画期的な学問の分野を切り開いた場であったことが窺えます。

その後で、800年代直前のヴェネツィア共和国の終焉とともに、大学はイタリア国家下に置かることとなります。大学の多くの教授及び生徒たちはそのころに起こった運動である、イタリア国家統一運動リソルジメントに積極的に参加。**1848年2月8日**は、オーストリア軍に対し、パドヴァの、そしてイタリアの独立を求めて戦った日。現在も、大学や地元人にとっての大切な記念日となっています。その後も第二次世界大戦中には対ファシズムの動きをとるなどの社会的、思想的な自由を掲げるという同大学ならではの堅固な姿勢を取り続けてきました。パドヴァ大学は「**金の勇気メダル**」を授けられた唯一の大学です。これは若い命が自由を追って戦ったために犠牲を払った記念です。

新し中庭の中の壁中で「hic vivunt hic vigent hic renovantur in aevum tot bellorum animae」と言うラテン語の意味は「我々はこの絶望的な魂の戦いで生き残り、絶対にあきらめない」のラテン語で書きました。今日のパドヴァ大学はイタリアのトップクラスの大学の一つです。健全な教育制度で、継続的にキャンパスエリアを拡張して、教育活動を革新で挑んでいます。1995年から、パドヴァ大学は完全な自治権を得ています。

訳者: 刘 璐



UNIVERSITÀ
DEGLI STUDI
DI PADOVA

「もし、科学革命発祥の地の名誉を特定の場所に与えることが許されているとすれば、これはパドヴァでなければなりません。」

-- ハーバード大学, H.Butterfield, 1958年

Area Comunicazione e Marketing
Ufficio Public Engagement

Palazzo Bo
via VIII febbraio 2
35122 Padova
+39 049 8273939

www.unipd.it/guidedtours

pg. ufficio comunicazione - UNIPD

見学 PALAZZO BO

Università degli Studi di Padova

宮殿ボー

今日の宮殿ボーはパドヴァ大学に属します。昔13世紀の末はダーカララ家族の宅です。「ボー（Bò）」というのは牛を指す「ブエ（Bue）」のヴェネト訛りの言葉。大学がこの地を構えた時代には、近くに牛屋通りがあり、ここにあった建物は、16世紀初期の**宿泊施設**(**Hopitium Bovis**)としてシンボルマークを牛としていたことから、この名で親しまれています。パドヴァ大学の校章にも、牛が表現されています。

大学は1493年から17世紀初頭まで、宮殿ボーをリファームしました。1889年は第2回のリファームは始まりました。第二回の再改装は学長先生カーロ・アンティ(Carlo Anti)の指示で、建築家エトレー・ファジオーリー氏(Ettore Fagioli)は**新の中庭**を建設しました。新しい中庭の中がいろいろの彫像品は有名な建築家ジョ・ボンディ氏(Giò Ponti)の作品です。

旧い中庭と記章

旧い中庭は1546年から建てれ、16世紀中のパドヴァで一番有名な建築家アンドレイ・モロニ氏(Andrea Moroni)の作品です。ルネッサンス時代で一番美しい建物の一つとして知られています。

旧い中庭は二階建ての廊下の建物です。第1階はドリック式の柱を築きで、第2階はイオニア式の柱を築きました。中庭から続く階段、そして美しい柱廊を配したルネッサンス様式が特徴。こんなたくさん記章は1592年から1688年まで、この学校のロースクールで任職した学長と傑出した学生代表。1688年から、ヴェネツィア共和国は記章を増えらないで命令しました。この決定は、一つは自己顕示欲を鎮めるため、もう一つには新しい記念碑の追加が古い記念碑を破壊につながるリスクがあると言う理由による。今の偉人室(Aula Magna)で置いて記章は初期のものです。

グランドオーデトリウム

グランドオーデトリウムは16世紀から18世紀までロースケールの教室でした。偉い科学者もガリレオ氏（Galileo）もはここで

授業をしました。彼たちの記事もこの教室で壁の中にあります。

19世紀前半、ここは絵画の教室を使いました。1854年から、1856年までグランドオーデトリウムに変更された、天井で天井画を描いました。天井の真ん中には画家のジュリオ・カリニー氏(Giulio Carlini)の作品「智慧と他の学際」（“la sapienza e le altre discipline”）です。教室の奥でジョウ・ボンデイ氏（Gio Ponti）の1942年の作品で大学議員を描いました。大学は学年開会や名誉教授を授けるなどの重要な式典をあげる時、議員たちはあそこで座ります。後ろの壁の真ん中にパドワ大学の校訓「**Universa Universis Patabina Libertas**」のラテン語を書きました。その意味は「**パドワもすべて人間のために自由を追う**」。

四十人の肖像の室

この教室の名前は四十人の肖像の室です。原因はこの室の壁の中に四十幅の肖像がある。この肖像画の皆様はユーロパで諸国から、パドワ大学で卒業した優秀な外国の学生です。

肖像画を描きた画家はジアンジャコワモン・ダレ・フォノン氏(Giangiacomo dal Forno,)です。

肖像の人物たちは色々な偉い卒業生です。例えば、スペインの教会と君主ーフィリップス二世(FilippoII)のロイヤル使臣、アンソニー・アウグスティネス氏(Antonio Augustin); フランスのカトリン・ディ・メディチ(Caterina de’ Medici)王室の大臣、ミシェル・ディ・ホスピダレ氏(Michel de l’ Hospital); イギリスのヘンリー三世(EnricoIII)の侍医、オックスフォード(Oxford University)の教授ートーマス・ライナー氏(Thomas Linacre) ; 最初に動物の体内で血液循環を発見された、イギリスで有名な実験物理学者、現代のライフサイエンスのバイオニア、イギリスで医科学園の創設者――ウィリアム・ハーヴェイ氏(Wiliam Harvey); スウェーデンのウプサラ大学（Uppsala University）で植物学と解剖学と医学の教授になった、スウェーデンのサイエンティストーオウロス・ロッドベイク氏(Olof Rudbek il vecchio),彼もパダヴァ植物園の世話人です;デンマークの医科大学の創設者の一つ、トーマス・バートリン氏(Thomas

Bartholin);15世紀のドイツの傑物な哲学者と枢機卿、ニコラ・ダ・クーザ氏(Nicola da Cusa);ドイツで解剖学と化学を研究する世話人、ヴォルナー・ロフィンク氏(Werner Rolfinck);ピョートル大帝(PeterI)が医学を学ぶためにパドヴァに派遣されたロシアの科学者、ピーター・ワシロジェヴェク・ポスディニコフ氏(Peter Vasiljevic Postnikov);1576年はポーランドの王座を継承したのハンガリー人のステファンーバルトリ氏(Stefan Báthory)、彼はポーランドの選挙した一番偉い王と見なされてしました; 1828年、ギリシャ共和国の最初の大統領、イオアニス・カポディストリアス氏(Giovanni Capodistria);コンスタンティノーブルの侍医、トルコで第一番の医科高校の創設者、エマヌエルー・シヤシアン氏(Emanuele Sciascian)です。

ガリレオの講壇

この四十人肖像室に置きで講座は昔でガリレオを使ったものです。昔の大学がグランドオーデトリウムより大きい教室はありません。世界で諸国からの学生たちはたくさんですから、学生たちはガリレオ教授を授業して時によく聞いて、教授の姿をよく見るために、この講座を造れました。この講座は19世紀まで、ずーと、グランドオーディトリウムに置きされてしました。

ガリレオ氏はパドヴァで18年間教えていました。彼はパドヴァで18年の時間は彼の人生で最高の時間だと言いました。このパドヴァで18年間、カリレオ氏は学生たちを敬愛された、ヴェネツィア共和国は彼の学術も個人安全も保障された。彼はパドヴァで現代的な科学方法を使って科学を研究始まりました。

解剖学のラボラトリ

1954年、有名な解剖学教授**ジローラモ・ファブリッチ・ダクアペンデンテ氏**(Gerolamo Fabrici d’ Acquapendente)は科学者のフーラ・パオロ・サルピ氏(Fra Paolo Sarpi)のアドバイスを受け付けりました。1594年に建築されたこの教室は世界で初の解剖学専用の固定な実験室。教室は250人まで収容することができました。実験便利のために、研究室では、取り外し可能な建築構造を取りました。この実験室は今まで長い歴史を持ってだけでなく、

それはよく保存されています。

この実験室は逆円錐型の6階仕立ての楕円状の木造らせん階段教室です。手すりはクルミの彫刻で作られています。

最初から、実験をする時はこの室の窓が全部を閉ました。生徒は授業中にトーチとキャンドルしか使わないです。

ヨーロッパの現代解剖学はここで誕生しました。ーージョワニ・パディシン・モルガニはパドヴァに来了授業をしました。彼はパドヴァの間で彼の研究成果を褒めされだ。彼は現代の病理解剖学の父として知られています。

1872年まで、この教室は授業する解剖室を使っています。この間で、教室の窓は1844年に修理のために短時間だけ開かれた。その後、1991年から1992年までの間改修しました。

解剖室の辺りは小さい教室があいます。この小さい教室で解剖室の模型を置いて。教室は「キッチン」と呼ばれました、この小さい教室で解剖授業のために使う遺体を解体準備しました、解剖室に移動します。

この教室の門の上にラテン語で書た言葉「Mors ubi gaudet succurrere vitae」の意味は「この場所で死者様は生者を助けになりました」。

医学の間

医学の間はボー宮殿で最も古く、最も魅力的な学術ホールの一つです。昔の生徒たちはここで解剖学の理論學を習いました。実は、よく保存された木製の格子の天井も中世の典型的な壁のブラークもよく説明された、この室が教室に使う前はダ・カララ家族の名下にある三つの豪華な住居の片隅です。14世紀、この教室はブル旅館の中心でした。今は医学院と各院の学生たちの卒業論文を述べる場所です。

世界で初の大学の女性卒業生

旧いパティオ鉄の大門一つの後ろ、彫像作品一つがあります。この彫像の女性は**エレナ・ルクレツィア・コルナーロ・フィスコピア氏**です。彼女は1678年に女性として世界で初めて大学を卒業し、哲学学士を取得しました。

解剖学のラボラトリ



旧い中庭と記章



旧い中庭と記章



グランドオーデトリウム



ガリレオの講座



医学の間

